

ゴミまみれのサーフィン

DEレポート No. 49

2025年1月
作成者:S.D

 **脱炭素経営ドットコム**
By DENKOSHA

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



「DEレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。

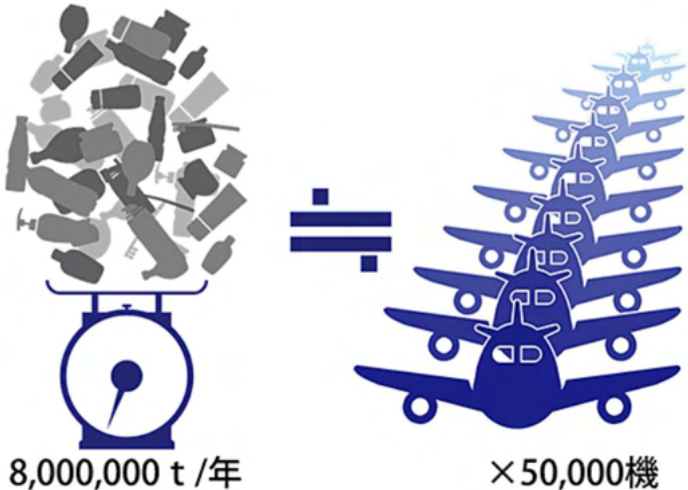


深刻化する海洋ごみ問題

■ 海洋プラごみの現状

- 海上を漂流しているプラスチックごみは全世界で1億5000万トンともいわれ、そこへ少なくとも年間800万トン(ジェット機5万機相当)が新たに流入していると想定されている
- プラスチックの使用が過去50年で20倍にも増え、その量は未だ増え続けており、適切に処理されないごみが雨などにより川、水路へ流入、海に至る(海洋ごみの7~8割は街から発生)
- プラスチックはその丈夫さ故に自然界では分解されず、2050年には魚以上にプラごみで溢れかえる海になり、近い将来ゴミまみれでのサーフィンが予想される

■ 海洋プラごみの年間流入推定量



出典:WWFジャパン(<https://www.wwf.or.jp/>)

■ 海洋ごみの発生メカニズム



出典:環境省(海ごみゼロウィークecojin(エコジン))

SDGsサーフィンとは

ワンハンドビーチクリーン・サーフワンハンド

■ ひとりひとりの小さなアプローチから大きなアプローチへ

- 海に流れ出たプラごみを出来る限り回収すべく、サーフィン後のワンハンドビーチクリーン・サーフワンハンド活動の実施(サーフィンを終えた後にサーフボードを片手に抱え、空いたもう片方の手でビーチのごみを拾って帰る活動で、海で遊ぶサーファーならではの発想が世界中に広まっている)
- 各団体が定期開催しているビーチクリーン活動への参加
- そもそも海洋ごみの7~8割の発生源である街の路上ごみをいかに減らしていけるかが課題(年間3万6千トンものプラごみが日本の陸域から海洋流出している)

■ ワンハンドビーチクリーン



出典:NPO法人サーフアンドシー

■ ビーチクリーン活動



出典:PR TIMES

サーファーが‘丘’でも出来ることがある

ワンハンド‘ご近所’クリーンの推奨！

■ 意識改革と理想の未来像

ポイ捨てしないのと言うまでもなく大前提として、路上ごみの海洋流出を少しでも減らすべく、日常生活で私たちにできることは、仕事や散歩後の帰宅時に近所のごみを一つだけでも拾って帰る活動、その名もワンハンド‘ご近所’クリーンの推奨！

また、職場周辺の地域清掃活動や各種団体主催の清掃イベントへの参加推奨、一人一人の意識改革により未来の子供たちへ豊かな海を残そう！（ごみのない白い砂浜、青い海で気持ち良くサーフィンがしたい！）

■ 海洋プラスチックごみ対策アクションプラン概要

OG20議長国として、世界全体で連携して効果的に対策が促進されるよう取り組む。
○プラスチックごみの海への流出をいかに抑えるか。経済活動を制約するのではなく、廃棄物処理制度による回収・流出防止、イノベーションによる代替素材への転換、途上国支援等。

対策分野	主な対策・取組
① 廃棄物回収・適正処理	▶ アジア諸国の廃棄物禁輸措置に対応し、 国内の廃プラスチック処理・リサイクル施設の整備 を支援
② ポイ捨て、流出防止	▶ 清涼飲料団体による 専用リサイクルボックスの設置 ▶ 漁具の流出防止 のため、 漁業者による適正管理 を要請
③ 陸域でのごみ回収	▶ 「 海ごみゼロウィーク 」(5/30~6/8前後)を2019年から開始し、 全国一斉清掃アクション を展開 (日本財団と連携。2021年までの3年間で240万人の参加を目指す。)
④ 流出ごみの回収	▶ 自治体による 海岸漂着物等の回収・処理 を支援 ▶ 漁業者等が取り組む海洋ごみの回収・処理 を支援 (漁業者が操業時等に回収した海洋ごみを、補助金を活用して市町村の施設などで処理)
⑤ イノベーション	▶ ロードマップ に基づく 技術開発 、 代替素材の生産設備整備・技術実証 を支援 (例：カネカ社が2025年までに海洋生分解性プラスチックの生産能力を100倍に増設計画)
⑥ 国際貢献・実証把握	▶ ASEANのナレッジセンター設立 など 廃棄物管理に関する能力構築 を支援 ▶ モニタリング手法 の国際調和の推進、漂着物・浮遊プラスチック類の調査等

我が国のベストプラクティス(経験知見・技術)を国際的に展開しつつ「**新たな汚染を生み出さない世界**」を目指す

出典:環境省HP

■ 弊社ヘッドオフィス近隣清掃活動の様子



出典:弊社社内データより

私たちの手で豊かな海を未来へつなぐことは十分可能

■ 参照・引用資料

- WWFジャパン「海洋プラスチック問題について」(<https://www.wwf.or.jp/>)
- 環境省(海ごみゼロウィーク | [ecojin\(エコジン\)](#)):環境省)
- NPO法人サーフアンドシー([NPO法人 サーフアンドシー](#))
- 環境省(海洋プラスチックごみ対策アクションプラン | [水・土壌・地盤・海洋環境の保全](#) | 環境省)
- WAVAL(サーフワンハンドのスタンスから考える海のゴミ問題! | [WAVAL サーフィンと自然を愛する人のサーフメディア](#))
- 日本財団ジャーナル([今さら聞けない海洋ごみ問題。私たちにできること](#) | [日本財団ジャーナル](#))



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電 気 の コ ン シ ェ ル ジ ュ

DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。